



札幌部会(第19回)

日時:	2018年5月19日(土) 14:30-17:30
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、新井(上智大非常勤)、濱地(道教大札幌校)、杉田(千葉県立津田沼高)、川瀬(札幌市立北翔養護)、松澤(札幌開成中等)、佐藤(札幌東陵高)、伊藤(千歳北陽高)、吉川(千歳北陽高)、奈良(藤女子中高)、山下(札幌市立簾舞中)、田丸(札幌市立西陵中)、竹内(稚内養護)、山崎(北見北斗高)の14名 [敬称略、順不同]

【内容要旨】

1. 新井先生より、今夏の経済教室の方向性として、①「何をねらいにしているのか」という解題と総括、②実践家による単なる授業提案ではなく、授業づくりの背景の説明を重視する試みを行うことについて説明が行われた。また、最近の東京部会や「陰謀会議(東京部会有志の勉強会の俗称)」の取組について報告があり、野間先生からは最近の大阪部会の取組について、山崎からは10月9日に北見で開催するワークショップの内容について報告があった。

2. 山崎より、「二つの授業提案と授業づくりの舞台裏(第3案)」の資料と、「アメリカ経済教育における社会問題学習の論理」(中等社会科教育学会『中等社会科教育研究』第36号掲載)の論文抜刷をもとに、名古屋で行う経済教室の発表内容について原案提示を行った。授業内容は、昨年部会で報告した「国鉄分割民営化とR北海道の経営問題」の社会問題学習を、「幸福」、「正義」、「公正」の観点から再構成し直したものとなっている。また、授業づくりの舞台裏(哲学)として、入試やテストを目的にするのではなく、生徒に学ぶ意義を実感させるため、現実の社会問題に対して経済概念を問題解決の道具として用いる形式の学習を志向していることを説明した。主な質疑応答の内容は以下の通りである。

Q1. この主題学習を年間指導計画のどの箇所で用いるのか?(新井)

→政治分野と経済分野の入れ替わり箇所で、経済概念を用いて問題解決をする意識づけを図るものとして用いる。(山崎)

Q2. 経済概念を活用することをどのように評価するのか?(新井)

→経済概念を単語として用いることよりも、考え方の筋道、文脈から文法的に活用できているかを、生徒の書いた内容、話した内容から評価する。(山崎)

3. 杉田先生より、「若者の政治への関心を高めるには/高校の授業で考える」[『朝日新聞』(2017年11月27日)掲載]の資料をもとに、授業設計の舞台裏について説明が行われた。また、「当日の流れ(素案)」の資料をもとにして、名古屋経済教室での二人(山崎・杉田)の発表順や流れ等についても確認を行った。発表順は「山崎→杉田」の順とし、①「登場人物紹介と実践紹介」を発表してから、適宜フロアから発言を求めたり、発表者どうしのやりとりを入れたりしながら、②「授業づくりで大切にしていること」の発表に入っていくという方向で検討を行った。主な質疑応答の内容は以下の通りである。

Q1. 二人の実践内容[「JR北海道の路線維持問題」(山崎)と「朝日新聞掲載の主権者教育」(杉田)]では根本的に教材が違いすぎる。なぜこの教材を用いようとしているのか?(野間)

→学び手の学び取った内容を重視しているから。(山崎)



→私は山崎論文の区分で言うと、教え手の教える内容を重視しているからということになる。(杉田)

→金子先生と発表する東京経済教室の授業案とは別に、「切実性」に沿った内容の授業案を用意した方が
良いのではないかと。(川瀬)

→2人の違いを前面に打ち出すのも逆に面白いかもしれない。(吉川)

4. 松澤先生より、「『min-na』の幸福を創るための金融」という題目で、国際バカロレア(IB)ルーブリックを使って同僚と協働し、「目標と指導・学習そして評価の一体化」を図りながら、中学3年全員に対して行っている「日経STOCKリーグ」の取組について説明が行われた。主な質疑応答は以下の通りである。

Q1. 「日経STOCKリーグ」を社会の授業として全ての生徒には難しいのではないかと。(新井)

→この教材に関連させて、暮らしや社会の変化、経済との関係を考察する活動、歴史や公民の教科書の経済データを読み取る活動、近現代の経済史や現代社会の状況について学ぶ活動などを学習プロセスの中に盛り込んでいる。(松澤)

Q2. 現実的な話として、先生たちは(文章型の)ルーブリックの構造を理解して使っているのか?(山崎)

→ルーブリックはIBが作成しており、このルーブリックを理解しないと授業がつかれないようになっている。
(松澤)

→IBの理念に基づいてルーブリックの運用がなされるのであれば、学校や先生たちの主体性は発揮しにくいのでは?(山崎)

→IBはあくまでも枠組み。授業設計は、学習指導要領や学校教育目標の実現をめざして、教員主体で行われている。(松澤)

5. 新井先生より、「生徒と取り組む『価格の働きと金融』に関するメモ」の資料をもとに、田丸先生と行う東京経済教室の発表内容の方向性について提案が行われた。主に、①昨年の経済教室での「野間モデル」を参考とすること、②どこかで「主体的、対話的で深い学び」になるような教材やネタを入れ込むこと、③生徒が何を身につけることで目標達成できるのか明らかにすること、④東京書籍の教科書を前提にして金融学習の内容をストーリー化することなどが取組の方向性として提案された。その後、田丸先生から発表に向けた決意が語られ、今後、札幌市内の先生たち数名で集まって検討を行っていくことが確認された。

6. 時間の都合により、以下の資料紹介のみ行われた。

(1)川瀬先生:「次期学習指導要領に向けて」(北海道札幌旭丘高等学校『研究紀要』より)

(2)田丸先生:「価格の働きと金融」(東京書籍『新しい公民』の指導資料より)

【その他】

多くの先生が懇親会や二次会、三次会まで参加をし、それぞれの現況や取組について語り合い、校種を超えた実践者どうしのつながりを深めた。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:次回は、9月15日(土)に開催。時間は14:30~17:00。

場所は、Sapporo55ビル5階 キャリアバンクセミナールーム。